

迷惑メールチェックサービス設定マニュアル

rev5.1

2023/01/19

株式会社ドルフィンインターナショナル

目次

概略説明	3
ログイン方法	4
ログアウト方法	5
迷惑メールチェックサービスの設定機能	5
フィルター強度の設定	6
ブラックリスト/ホワイトリストの設定	7
迷惑メールの確認方法	11
迷惑メールの判定基準について	12

概略説明

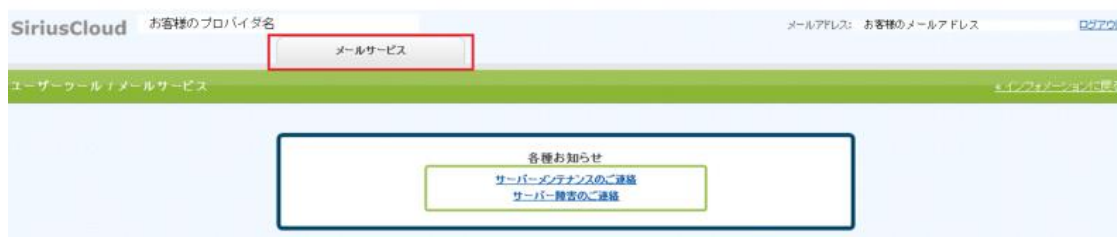
迷惑メールチェックサービスでは、フィルター強度の設定、ブラックリスト、ホワイトリストの設定が可能となり、迷惑メールを検知し自動的に Web メール迷惑メールフォルダに隔離するサービスです。迷惑メールの受信を未然に防ぐことができ、より安全にメールをご利用いただけます。迷惑メールの隔離設定は、メールの設定ツール「メールツール」で行います。

- ※ 迷惑メールフォルダに格納されたメールはメールソフトではダウンロードされません。
迷惑メールフォルダ内のメールは、Web メールで確認していただく必要があります。
また、迷惑メールフォルダ内のメールは受信から 30 日後に削除される仕様となっております。

ログイン方法

1. メールツールログイン画面(<https://mailtool.earth-core.jp/mail>)に、設定を行う基本メールまたは追加メールおよびメールアドレスとパスワードを入力し、[ログインする]をクリックします。

- 2.[メールサービス]をクリックすると設定画面が表示されます。



ログアウト方法

メールツールからログアウトする場合は、画面右上の[ログアウト]をクリックします。



迷惑メールチェックサービスの設定機能

迷惑メールチェックサービスでは以下の3つの機能を設定できます。



(1) フィルター強度	迷惑メールの判定強度を Min~Max の 15 段階で設定する事ができます。
(2) ブラックリスト	ルールに対する条件(送信者/受信者/件名/本文/メールヘッダ/メールサイズ)を設定し適用することで、迷惑メールフォルダに振り分けることができます。
(3) ホワイトリスト	ルールに対する条件(送信者/受信者/件名/本文/メールヘッダ/メールサイズ)を設定し適用することで、迷惑メールとして振り分けられなくなります。 ブラックリストと重複する条件を設定した場合は、ホワイトリストのルールが優先されます。

フィルター強度の設定

フィルター強度は「フィルター強度」欄にあるスライダーを左右にドラッグして調整します。

設定強度以上の Score のメールを受信した場合には Web メール迷惑メールフォルダにメールが格納されます。



(1) フィルター強度欄にある、スライダーを任意の場所にドラッグ操作で調整します。

弱(Score15)～強(Score1)の 15 段階で設定が可能です。



※ 最強の設定にした場合、通常のメールも SPAM として判定される可能性がある為、あわせてホワイトリスト機能も設定していただく事をお勧めします。

(2) 設定後、画面最下部にある[保存する]ボタンをクリックします。



ブラックリスト/ホワイトリストの設定

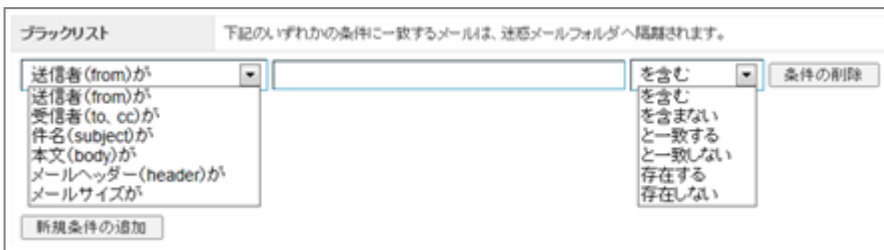
「ブラックリスト/ホワイトリスト」では、ブラックリストに登録した条件に合致するメールは Web メール迷惑メールフォルダに、ホワイトリストに登録した条件に合致するメールは受信トレイフォルダに移動します。

※ ブラックリストとホワイトリストで重複した条件が設定されている場合は、ホワイトリストのルールが優先されます。

(1). ブラックリスト、またはホワイトリストの項目にある、[新規条件の追加]ボタンをクリックします。

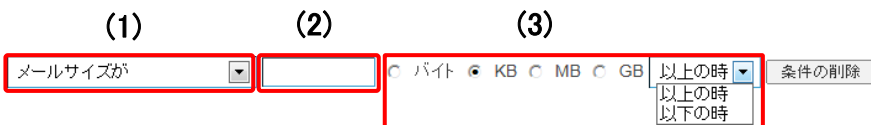


(2). 設定画面で条件メニューを選択します。



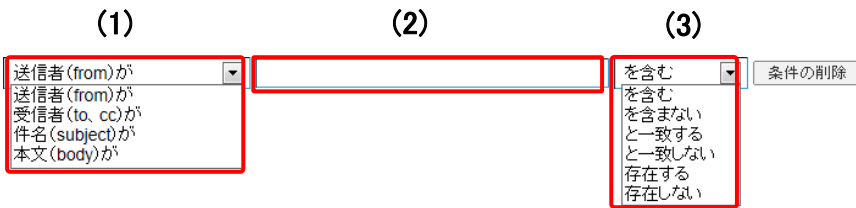
次の設定画面は、選択した条件メニューにより、3通りのパターンに分かれます。

【パターン1】「メールサイズが」を選択した場合



(1)	メールサイズが	条件にメールサイズを指定する場合に選択します。
(2)		(3)で選択する単位に応じた数値を入力します。
(3)		メールサイズの単位を選択します。 バイト～GB、設定した数値以上 / 以下の設定が行えます。

【パターン2】「送信者(from)、受信者(to、cc)、件名(Subject)、本文(body)が」を選択した場合



(1)	送信者(from)が	条件にメールの送信者(from)を指定する場合に選択します。
	受信者(to、cc)	条件にメールの受信者(to、cc)を指定する場合に選択します。
	件名(Subject)	条件にメールの件名(Subject)を指定する場合に選択します。
	本文(body)	条件にメール本文(body)を指定する場合に選択します。
(2)	設定条件欄	条件となる、メールアドレス、ドメイン、件名、本文(文章)を入力します。
(3)	を含む	(2)で入力したメールアドレス、ドメイン、件名、本文が <u>含まれている場合</u> に動作します。 ※ 含む/含まないは、部分一致を意味します。
	を含まない	(2)で入力したメールアドレス、ドメイン、件名、本文が <u>含まれていない場合</u> に動作します。
	と一致する	(2)で入力したメールアドレス、ドメイン、件名、本文が <u>一致する場合</u> に動作します。 ※ 一致する/しない設定は、 <u>条件の完全一致</u> を意味します。 例えば、『From が』『sample@*****.com』と『一致する』いう設定をしても、実際に送られて来たメールヘッダの From が『"イージェーワークス サンプル" <sample@*****.com >』となっている場合には、一致とは判定されない為、フィルター設定は動作しません。
	と一致しない	(2)で入力したメールアドレス、ドメイン、件名、本文が <u>一致しない場合</u> に動作します。
	存在する	(2)で入力したメールアドレス、ドメイン、件名、本文が <u>存在する場合</u> に動作します。 ※ 存在する/しないは、header 情報の有無を確認する項目となります。 例)「From:」「To:」「Cc:」「Subject:」のヘッダーが存在するかしないかを判断します。 ※ 『本文 (body)』設定はメールヘッダに『body:』というヘッダーがそもそも存在しない為、設定しても動作しません。
	存在しない	(2)で入力したメールアドレス、ドメイン、件名、本文が <u>存在しない場合</u> に動作します。

【パターン3】「メールヘッダー(header)が」を選択した場合

(1) (2) (3) (4)

メールヘッダー(header)が 条件の削除

を含む
 を含まない
 と一致する
 と一致しない
 存在する
 存在しない

(1)	メールヘッダー(header)が	条件にメールヘッダー(header)を指定する場合に選択します。
(2)	条件となる、header を入力します。header はメール画面から確認できます。 【入力例】From(送信者)が、sample@*****.com を含む場合 この場合は「From」と入力します。	<input type="text"/> メールヘッダー(header)が <input type="text"/> From <input type="text"/> sample@*****.com <input type="text"/> を含む <input type="text"/>
(3)	(2)で入力した header の詳細条件を入力します。 【入力例】From(差出人)が、sample@*****.com を含む場合 この場合は「sample@*****.com」と入力します。	<input type="text"/> メールヘッダー(header)が <input type="text"/> From <input type="text"/> sample@*****.com <input type="text"/> を含む <input type="text"/>
(4)	を含む	(2)と(3)で入力した、header 情報が含まれている場合に動作します。 ※ 含む/含まないは、部分一致を意味します。
	を含まない	(2)と(3)で入力した header 情報が含まれていない場合に動作します。
	と一致する	(2)と(3)で入力した header 情報が一致する場合に動作します。 ※ 一致する/しないは、完全一致を意味します。
	と一致しない	(2)と(3)で入力した header 情報のいずれかが一致しない場合に動作します。
	存在する	入力した header 情報が存在する場合に動作します。 ※ 存在する/しないは、header 情報の有無を確認する項目となります。 例)「From:」「To:」「Cc:」「Subject:」等のヘッダーが存在するかしないかを判断します。 ※ こちらの項目を選択した際には項目が変化します。 <input type="text"/> メールヘッダー(header)が <input type="text"/> <input type="text"/> 存在する <input type="text"/> 条件の削除 <input type="text"/> 存在する <input type="text"/> 存在しない
存在しない	入力した header 情報が存在しない場合に動作します。	

(3). 条件メニュー毎の設定を行ったら、画面最下部にある[保存する]ボタンをクリックします。

迷惑メールフィルター ON

フィルター強度 95%

ブラックリスト 下記のいずれかの条件に一致するメールは、迷惑メールフォルダへ隔離されます。

送信者(from)が sample@*****.com を含む 条件の削除

新規条件の追加

ホワイトリスト 下記のいずれかの条件に一致するメールは、迷惑メールフィルターやブラックリストより優先して、通常メールとして処理されます。

件名(subject)が 重要 を含む 条件の削除

送信者(from)が sample@*****.com と一致する 条件の削除

新規条件の追加

ユーザーフィルター 現在は何も設定されていません。

新規フィルターの追加

保存する キャンセル

迷惑メールの確認方法

迷惑メールと判定されたメールは、Webメールの迷惑メールフォルダーに格納されます。

ここでは迷惑メール確認方法を案内します。

- (1). Internet Explorer などのブラウザを利用し、Webメール画面にアクセスします。

WEBメール URL: <https://webmail.earth-core.jp/>

画面が表示されたら、ユーザー名とパスワードを入力し、[ログイン]ボタンをクリックします。

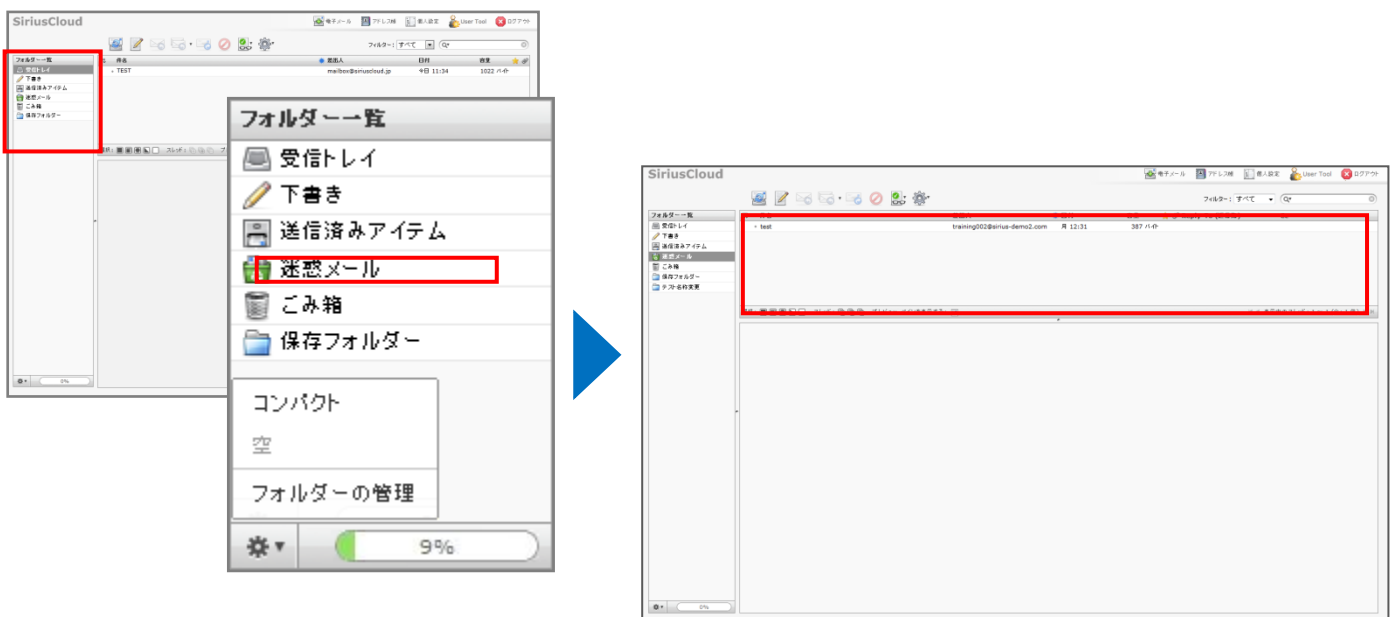
ユーザー名	メールアドレスを入力します。
パスワード	メールパスワードを入力します。

※ 設定を行う基本メールまたは追加メールにてログインしてください。

※ ログインに失敗する場合はユーザー名、パスワードをご確認の上、再度お試しください。

- (2). ログインに成功すると Webメールのメイン画面が表示されます。

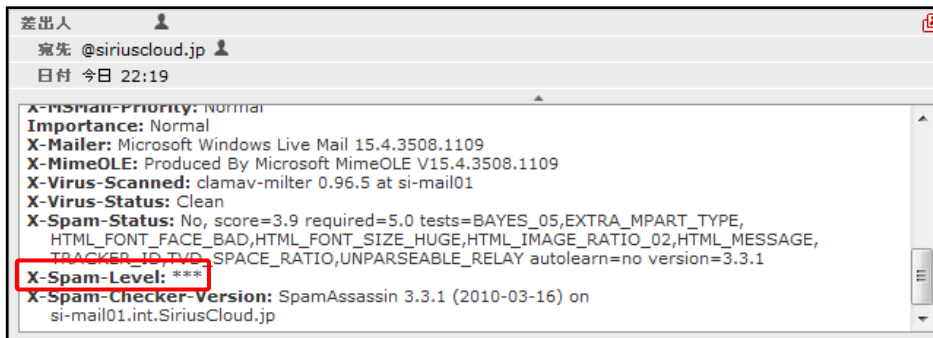
画面フォルダー一覧の「迷惑メール」のフォルダをクリックすることで迷惑メールに隔離されたメールを確認できます。



迷惑メールの判定基準について

下記の条件に合致したメールが SPAM 判定され、迷惑メールフォルダに格納されます。

- ・ ブラックリストに設定されている条件に合致している
- ・ メールヘッダの「X-Spam-Level」の「*」アスタリスクの数が設定したフィルター強度以上の場合



なお、本機能では SpamAssassin というスパム対策ソフトにて SPAM 判定を行っています。

SpamAssassin が SPAM 判定基準としている要素はメールヘッダから確認が可能です。

X-Spam-Status	<p>メール内の SPAM 要素を Score として数字で表示します。</p> <p>X-Spam-Status: No, score=3.9 required=5.0 tests=BAYES_05,EXTRA_MPART_TYPE,HTML_FONT_FACE_BAD,HTML_FONT_SIZE_HUGE,HTML_IMAGE_RATIO_02,HTML_MESSAGE,TRACKER_ID,TVD_SPACE_RATIO,UNPARSEABLE_RELAY autolearn=no version=3.3.1</p> <p>上記例では Score は 3.9 という事になります。</p> <p>Score 以降の記述は、加点要素が記載されています。</p>
X-Spam-Level	<p>X-Spam-Status の Score が 1.0 以上の場合に表示されます。</p> <p>X-Spam-Level: ***</p> <p>Score の数字は「*」を使って 1 単位ずつ表示されます。</p> <p>例) score=3.9 の時には「***」星3つ、score=5.1 の時には「*****」星5つ</p> <p>※このヘッダ情報を元に、迷惑メールフォルダーにフィルタリングされます。</p>